

世界の記憶を次世代へ

引き揚げの史実を後世に継承してほしいとの願いで、貴重な資料をご寄贈いただきました引揚者及びそのご家族の方々とお約束の一つ叶えることができましたことは、誠に感慨深いものがあります。これもひとえに、「舞鶴引揚記念館資料のユネスコ世界記憶遺産登録を応援する会」をはじめとする市民の皆様、並びに関係する多くの方々の温かいご理解・ご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。

舞鶴へ帰還された約66万人のうち、およそ45万人がシベリアに抑留された方々であり、飢えと寒さと重労働という想像を絶する環境の中「祖国に帰りたい」、「愛する家族に再び会いたい」との一念を心の支えとして、辛苦の日々を必死に生き抜き、帰還された方々です。引揚者の多くは、帰国を果たせなかった同胞の分までと、精一杯戦後の復興を支え、その苦難の長い道のりの先に、今日の我が国の発展、自由で平和な社会の礎が築かれてきたことに思いを馳せるとき、心からの敬意と深甚なる感謝の念を禁じえません。

当時の舞鶴市民は、自らの生活もままならない中、港や街頭での出迎え、湯茶やふかし芋のふるまいなどを行いました。舞鶴の美しい自然と舞鶴市民の無私の奉仕が引揚者の方々の中に安寧を与え、彼らの新たな人生の第一歩を踏み出す大きな原動力となったことは本市の誇りであり、本市が「戦後復興のふるさと」である所以です。

世界記憶遺産への登録を新たなスタートとして、本市が捧げる世界の恒久平和への祈りや、引き揚げ当時の舞鶴市民が発揮された弱きを慈しみ、困っているものに手を差し伸べる優しさといった「舞鶴の心」ともいうべき精神を大切にしながら、市民の皆様とともに、世界へ、そして未来へ、引き揚げの史実の継承と平和の願いの発信を進めてまいります。

舞鶴市長 多々見良三



世代を超えて語り継ぐために
舞鶴・引揚語りの会 理事長 谷口 栄一さん

世界記憶遺産登録を心より喜んでおります。

私たち「語りの会」は、引き揚げの史実、および舞鶴市民の果たした役割を次世代の舞鶴市民に語り継いでいく良い機会であると考え、「応援する会」を立ち上げ、多くの方々の協力を得ながら、署名活動と呼びかけてまいりました。

舞鶴から始まった署名活動が京都府の全市町村をはじめ、全国47都道府県や海外の方々まで賛同を得て、目標の5万筆に達成いたしました。厚く御礼申し上げますとともに、私たち「語りの会」は、ここ舞鶴から、全世界に向けて平和の尊さをこれまで以上に発信していく必要があると重く受け止めています。



人の心に「平和のとりで」を築くために
有識者会議 会長 東京女子大教授 黒沢 文貴さん

待ちに待った舞鶴引揚記念館所蔵資料の世界記憶遺産への登録、本当におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

これらの資料の価値が今回、ユネスコに認められたことは、日本国民のものだけでなく、世界の人々との共有財産になったことを示しています。

ユネスコ憲章は「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と謳っています。世界記憶遺産である「舞鶴への生還——」が、「人の心の中に平和のとりでを築く」ために活用され、継承されることを願っています。

世界記憶遺産登録を受けて 寄せられたメッセージ



私たちの毎日が明日の世界をつくる
大浦小学校 6年 栗野 詩可さん

私たちのふるさと大浦は、引き揚げの歴史と深い関わりがあります。世界記憶遺産に「白樺日誌」などの引揚資料が登録され、地元の小学生の私たちはとてもうれしく思います。

7月には、全校児童で引き揚げがテーマとなった音楽劇「君よ生きて」を鑑賞し、抑留されていた人たちが、マイナス30℃を下まわる寒さの中で重労働に携わっていたことを知りました。二度とあってはならないと感じました。そのために私は、日頃から平和についてみんなで考えを深めることが大切だと思います。私たちの毎日が明日をつくり、明日の世界をつくるのですから。



私たち若い世代が「舞鶴の温かい心」を継承
若浦中学校生徒会代表 神成 稜生さん

私たちが通う、若浦中学校の校区にある引揚記念館の資料が世界記憶遺産に登録されることが決まりとても喜んでおります。

私たちの愛する舞鶴は、戦後13年間もの間、引揚港という大変貴重な役割を果たしました。引揚船が到着するたびに当時の小・中学校の児童・生徒や地元の人たちが「赤とんぼ」を歌って引揚者を迎え、お茶をふるまったり知り、当時の舞鶴の人たちを誇らしく感じると同時に、そのような温かい心を私たちは受け継ぎたいと思いました。

舞鶴が、ここに住んでいる人だけのふるさとではなく、離れている人たちにとっても、いつまでも、平和なふるさとであって欲しいと願っています。

世界の記憶の「語り部」になりませんか？

～ 養成講座を開講 受講者を募集 ～

引揚記念館では、「舞鶴・引揚語りの会」の会員が来館者に、シベリア抑留や引き揚げの史実を、分かりやすく解説するボランティア活動を行っています。

同館の資料が世界記憶遺産に登録されたことで、国内外から注目され、ますますその役割が重要となっています。このたび、語り部養成講座を開講しますので、語り部として活動をご希望される人は、ぜひ受講してください。無料です。

【開催日】12月19日(土)、来年1月16日(土)、2月20日(土)、3月19日(土)の13時～16時(4日間の連続講座)

【場所】引揚記念館

【定員】先着20人

【申し込み方法】11月30日(月)までに電話かファクスで引揚記念館(☎68・0836、FAX 68・0370)へ。

